

コラム3



Column3

金融経済の基本を理解する

株・債券・為替の価格変動

株式、債券、為替は日々価格が変化します。基本的には需要と供給で価格が決定されるので、需要の強いものは高くなり、需要の弱いものは安くなります。株式は、会社の業績がよくなった場合や、金融政策で市場に余剰資金が増加した場合に上昇します。安全資産といわれる債券は、世界経済が危機に陥ると、相対的に安全と考えられる国の債券価格が上昇(利回りは低下)します。また、為替は、国対国の経済力の差によって動くものです。世界経済が危機に陥ると、相対的に安全と考えられる国の通貨が上昇します。

経済の動向を読むための経済指標

経済の動きを読み解くには、日経平均株価をはじめ、さまざまなデータの内容を理解し、分析する必要があります。以下の指標などを参考に、パーソナルファイナンスに活かしましょう。

●日経平均株価(日経225)

東証一部に上場している225銘柄の平均株価指数のこと。日経225とも呼ばれ、TOPIXと並ぶ日本の株式市場の指標の一つです。日本経済新聞社が算出します。企業業績や景気動向に先行して上下するといわれています。

●東証株価指数(TOPIX)

東京証券取引所(東証)一部に上場しているすべての日本企業を対象とした株価指数で、基準日である昭和43年(1968年)1月4日の時価総額を100として、時価総額を指数化しています。日経平均株価と比べ、特定の銘柄の価格変動の影響を受けにくいのが特徴です。

●外国為替相場

通貨と通貨の交換比率のこと。円と米国ドルの交換比率であれば、1ドル=〇円という表示になります。

●長期国債利回り

期間10年の国債の利回り。日本の長期金利の基準となり、住宅ローンなど長期間の融資金利の目安にもなります。長期固定住宅ローンのフラット35は、10年国債を基準に金利を上乗せしています。

●消費者物価指数

総務省が毎月発表する、消費者物価の指標。物価の変動をわかりやすく表す経済指標です。CPIとも呼ばれます。インフレ・デフレの度合いがわかります。

金融経済を学べる「お役立ちサイト」

●知るぽると <https://www.shiruporuto.jp/> ●日本証券業協会 <http://www.jsda.or.jp/>

●一般社団法人 全国銀行協会 <https://www.zenginkyo.or.jp/>

金融政策が与える「家計への影響」

金融政策とは、物価を安定させて経済の健全な発展を実現するため、中央銀行(日本では日本銀行)が通貨や金融の調節を行うことです。日本銀行は、公開市場操作(オペレーション)などによって金利やマネタリーベース(世の中に直接的に供給するお金の量)を適正な水準にコントロールします。不況やデフレのときには金融を緩和して経済活動を活発に、インフレのときには金融を引き締めて経済活動を落ち着かせようとしています。金融を緩和すると結果として金利が下がり、金融を引き締めると結果として金利が上がるとされ、それが家計へも大きく影響を及ぼします。

●金利が上がると・・・

預貯金金利が上がって利子所得が増えます。一方、住宅ローンは金利が上がって返済が大変になるため、住宅が売れなくなるといった経済への悪影響もあります。景気上昇を抑える効果があるので、景気が過熱気味の際は金融引き締めにより金利を上げる政策がとられます。

●金利が下がると・・・

預貯金金利が下がり、お金が増えにくくなります。一方、金利が下がって住宅ローンが借りやすくなり、住宅が売れるようになります。設備投資が増加したり、不動産が買いやすくなったため、景気対策として実行されると、不況を好況に誘導する効果があります。

知っておきたい「リスク管理」と「分散投資」の重要性

投資をするときに大切になるのが「リスク管理」と呼ばれるものです。高いリターン(利益)が期待できるほど価格の変動(リスク)も大きくなるのが投資の大原則です。価格変動に備えて投資先を分散したり、長期運用を心がけることにより、リスクを抑えて利益を生みやすくなります。

●銘柄分散

株式と債券、国内と海外など、異なる値動きをするものを組み合わせて投資をする手法です。ある商品の値下がりや、他の商品の値上がりで補うなどして、損失を少なくさせる効果があります。

●時間分散

ドルコスト平均法に代表される、購入のタイミングをずらしていく手法です。毎回一定額でその時の価格のものを購入します。つまり、高値のときには少量の購入、安値のときには大量の購入となります。もし投資期間中に値下がりも起ころしても、安値で投資を継続できるため、値が戻ると利益が出やすくなるといったメリットがあります。

●長期運用

金利や配当、運用益などをさらに運用することにより、収益が収益を生む「複利」効果が期待できます。長期で運用するほど複利効果を多く享受することができ、リスク・リターンを安定させる傾向があるとされます。

ライフプランを描いてみる

給与明細書・源泉徴収票の見方

消費と貯蓄・投資

お金を借りる、お金を返す

コラム1 インターネットを活用したパーソナルファイナンス

コラム2 消費者トラブルに遭わないために

公的保険と民間保険・共済商品

公的年金とリタイアメントプランニング

コラム3 金融経済の基本を理解する

ライフイベント表・キャッシュフロー表を作成する

みんなのトーク

経済指標のチェックは日経平均より株式や債券から

「へ、アタシは、たまりに日経平均をチェック」ってカンジート

金利ってムズカシ〜、経済学部卒なのに…(汗)

よく見るよ、ヒントはすべて隠れてるから! パパの親父の老後心

もう! 政治家は景気をよくしろよ! わが家の緊縮財政に疲れたいよ!